
フライ・フィッシャーズ

カカオ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フライ・フィッシュャーズ

【Nコード】

N4691Z

【作者名】

カカオ

【あらすじ】

その民宿は海辺にあった。概観はお世辞にもきれいとは言えず、くたびれたそれだった。そこにはどういうわけかワケあり客が集まり、従業員もワケありで悩みを抱えていた。それぞれの悩みが渦を生み、風を起こし、やがては台風となる。そんな嵐の中を、彼らは空を泳ぐこいのぼりの如く飛ぶことができるのか。

民宿熊島を舞台にした群像劇が、今まさに幕を開ける。

201号室の掃除

右手に掃除機、左手に掃除機のホースを持ち、熊島新は二階へと続く階段を上っている。額から汗の粒が蕁麻疹みたいに大量発生し、拭っても拭っても生産され続ける。

「あちー」

新は独り言を呟いた。

今日は六月二十五日、土曜日。天気、晴れ。湿度、スーパー高え。とにかく蒸し暑いのだ。先週末までは梅雨らしく連日雨を投下していたお天道様も、やがてそれに飽きて今度は太陽光線による熱照射攻撃に切り替えた。

連日の雨による湿気と昨今の温暖化も手伝って、日本古来より代々受け継がれている蒸し暑さが、よりバージョンプして今年も引き継がれてしまった。人間どもが暑さで苦しむ姿を、お天道様はさぞ愉快そうに眺めていることだろう。

二階廊下には到達。

左側に窓が真つさらなテストの答案みたいに何も無い空を映し、右側には201、202、203号室のドアが三つ並ぶ。

新は一番近くの201号室のドアをノックする。

返事はない。ただのドアのようだ。

いやいや、奥には201号室のお客さんがいるはず。新は腕時計を見る。去年、砂浜の掃除の最中に拾ったその見るからに安物のデジタル式の腕時計は十時三分を示している。

この時間、彼女は朝ごはんを食べ終えてうだうだしている時間だ。たぶん、いる。

「滝川さん」

お客さんの名を呼ぶ。返事はない。

そこで新は思い出す。201号室のお客さんがいつも口うるさく言っていたことを。

「はあ……」

新は嘆息し、そのカタカナ五文字の名を呼ぶ。

「……クリステルさん」

新がそう呼ぶやいなや、ドアは待ってましたといわんばかりに開けられた。明らかにドアの前でスタンバっていたものと思われる。

「よー、青少年」

201号室のお客さん

たきがわはなこ
滝川花子は挨拶した。

実年齢は二十四歳とのことだが、実際の見た目は二十歳、いやそれより下にも見える。小動物めいた可愛らしさ、ぽわぽわふわふわした雰囲気振りまいているが、はつきりとした物言いと遠慮と容赦と礼儀のない振る舞いで、見た目から窺えるキャラを崩壊させている。

「あの滝川さん、部屋の掃除を」

「あたしのことはクリステルと呼びな」

滝川は間髪いれず訂正した。譲れないらしい。

「は、はあ……すいません。それであの……クリステルさん、部屋の掃除の時間なので、少しの間外に出ていて欲しいんですけど」

「あーはいはい」

滝川は面倒臭そうに返事をする、財布と携帯電話をジーンズのポケットに突っ込み腕時計を装備、さらに皮製の大きな手帳を無理やり尻ポケットにねじ込む。部屋の外に出る。

彼女は新とすれ違うとき「アンタも高校生なんだからもつと遊びなよー」と声をかけ、階段を降りていった。

これはこれで楽しい仕事なんだけどなあ。

新はそう思いつつ、掃除機くのいちたのコンセントを差込み、201号室を見渡す。隣の部屋の久野一太から借りたらしきマンガ本が何冊かベツドの上に放られている。机の上には朝ごはんの食器類が盆に載せられている。本当は食器類の片付けはセルフサービスで、各自がダイニングの流しまで持って行かなくてはならないのだが、滝川はよく忘れて部屋に放置してしまう。

新は掃除機のスイッチを入れようとして、すぐに取りやめる。部屋に転がっているスーパーボールを片付けてからでないと、掃除機が吸い込んで壊れてしまうかもしれない。滝川の部屋にはなぜかスーパーボールがいくつもあるところと転がっている。赤、黄、緑、青、キラキラしたようなものまでカラフルに揃っている。その一個一個を拾って小さなかごにまとめて机の上において置く。たぶんまたすぐには散らかるだろうけど。

さて、と。

新は掃除機を起動させる。

この時間帯は『民宿熊島』の掃除の時間なのである。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4691z/>

フライ・フィッシューズ

2011年12月15日22時49分発行